羽ばたく新規就農者

担い手養成実践農場で定着、地域を元気に

京都府農業会議と京都府は、2002年から府内各地に「担い手養成実践農場」を開設。これまで130人の新規就農希望者が研修を修了、うち南丹地域では52人が就農した。地域に担い手が誕生し、若い力で農業に新風を吹き込んでいる。

有機専業迷わず挑戦

亀岡市　片本　満大さん

有機栽培のナスを紹介する片本満大さん

亀岡市で有機農業を営む大阪府出身の片本満大さん(41)は、3年前に就農し、当初から本格的な有機栽培に挑戦。落ち葉や刈り取った草を堆肥化して畑に大量投入し、土づくりに力を入れてきた。

土づくりが進むと収量が安定。今では60㌃で常時20種類、年間70種類の野菜を生産し、消費者や八百屋に販売。固定客が増えている。

販売先はイベントなどに参加して自ら開拓。最近は子供連れで畑に来る消費者も増え、自分で気に入った野菜を収穫してもらう交流販売が好評だ。

20代の頃から「いずれ農業をやりたい」という夢を抱いていた片本さん。会社を退職し、実践農場でプロ農家の有機栽培の技術や販売方法を学び、迷わず有機専業で農業経営を開始した。

現在、亀岡市内で有機農業を志向する若手グループ「オーガニックアクション」の理事として活動。また、「消費者との交流が元気の素（もと）」と畑や水田での農業体験を企画して一緒に食べる場づくりに努めている。

JA直売部会で活躍

亀岡市　中川　喬之さん

作業場でナスを選果する中川喬之さん

JA京都亀岡直売部会で活躍する兵庫県出身の中川喬之さん(36)は2年前に就農し、夏場はナスとキュウリ、冬場はシュンギクなどを栽培。大手スーパーの直売コーナーの「亀岡そだち」「亀岡うまれ」ブランド野菜の生産者だ。独立して2年目ながら、直売部会の仲間と切磋琢磨（せっさたくま）して技術を磨いている。

サラリーマン時代は事務職だったが、「自分の責任で判断し、外で体を動かす仕事をしたい」と新規就農を志した。

直売部会の先輩農家から野菜栽培の基礎技術をみっちり学び、実践農場での研修を経て独立。現在は80㌃（うちハウス3棟6㌃）を一人で切り回している。

「技術には自信がついたが、一人で生産と販売をこなすには限界を感じる」と、今後の規模拡大と雇用を計画し、ステップアップをめざしている。

地域を支える存在に

南丹市　田中　忍さん

ナスを整枝する田中忍さん

南丹市で今年就農した田中忍さん（34）は、実践農場で研修したナス、キュウリ、枝豆を30㌃栽培し、市場を中心に出荷している。

マルシェで販売していた野菜に興味を持ち、自分で作ってみたいと新規就農を志した田中さんは、就農相談窓口で紹介された南丹市の実践農場で野菜作りに必要な知識や技術、農作業のノウハウを学んだ。

指導者の農家から支援を受けて独立し、今年から経営を開始。現在、実践農場で教わった農家のレベルに早く近づくため奮闘中だ。

今夏は極端な長雨と高温の異常気象で野菜の生育が悪く、予定していた収穫量を下回ったが、「もっと野菜の種類を増やして、主力になる品目を見つけたい」と意欲的だ。

地域の共同活動（草刈り、水路掃除など）にも積極的に参加するなど、地域を支える担い手として、周囲の期待に応えて活躍している。